

NPO 法人 純正律音楽研究会会報 ~2025年5月発行~

ひびきジャーナル



〒169-0073 東京都新宿区百人町 4-4-16-1218 Tel:03-5389-8449
Fax:03-5389-8449 e-mail:puremusic0804@yahoo.co.jp

発行日 2025年5月26日
発行責任者 NPO 法人 純正律音楽研究会
編集 相坂政夫

No.83



さわやかな五月の風を感じ、日々が心地よく感じられるこのごろ、いかがお過ごしでしょうか。

今年開催される大阪・関西万博は、世界中の革新的な技術とアイデアが集まる国際的なイベントです。この万博では、未来社会を形作るための新しい発想が発信され、参加者は最新技術を通じて社会課題の解決に触れる貴重な機会を得られます。開催は4月13日から10月13日になります。開催時間は午前9時から午後10時迄です。開催地は、大阪市此花区にある人工島、夢洲(ゆめしま)で、最寄り駅は大阪メトロ中央線の夢洲駅です。存分に楽しみましょう。

次回のコンサートは「弦×絃×鉦 和洋の響き 未来に向かって」7月5日(土曜日)14時開演、開場13時30分、会場は市川の山崎パン 飯島藤十郎社主記念LLCホールにて開催いたします。出演、水野佐知香(ヴァイオリン)、三宅美子(ハープ)、吉原佐知子(箏)、市川香里(三絃)、星乃マロン(朗読)、森重行敏(司会)。是非ご来場いただければ幸いです。

今後とも、玉木宏樹の意思を継いで「純正律音楽」の普及に邁進していくと思っております。

【日本人の感性と才能】

洗足学園音楽大学客員教授・ヴァイオリニスト
NPO 法人 純正律音楽研究会 代表
水野佐知香

涼しかったり暑かったり、身体がこの気温差についていくのがとても大変な毎日ですが、皆様いかがお過ごしですか？

最近、日本人の感性、魂など、世界から驚異的な人たちの集団である、と見られているという話をよく聞きます。

戦後、日本に来たGHQの人たちが、日本の子供達の教科書を見て、レベルの高さに驚いた！という記事も目にしました。大変な働き者で、昔の写真を見ると、多くの荷物を頭からも持ち、人間離れした仕事量をこなしています。

素晴らしい美術作品、着物、工芸品など本当に素晴らしいです。その日本人の才能を活かさなくするために、長期的に、食べ物などを変化して、才能を封印してきているという話も聞いています。

西洋の食事の推進、小麦粉の入ったパン、ピザ、コカコーラ、また食品添加物などなど！アメリカ、ヨーロッパでは禁止になっている添加物を日本では認められています。

日本人には日本人にあった、ご飯、お味噌汁、梅干しなど素晴らしい食事があり、今になり、見直されています。ただ、現在、本当に作られた梅干しや漬物などは、売買禁止になっていたり、種子法で、現在実がなった種は次に使ってはならなくなっています。また、薬も多く使われ、アメリカでは癌が減っているのに、日本では癌の方が増えている。元気に、ワクワク寿命まで活躍したいものです。

本当に日本の良さを日本人の才能を伸ばすために、環境を整えて、食事のこともこれからはみんなで考えていただきたいと思います。

食事は薬なのです。経皮毒のことも言われています。化粧品、シャンプー、洗剤からの薬害もあり、胎児の時から影響があり、これからのお供達のためにも、大人は考えていかなくては？と思います。

音楽で世界平和を ❤ と玉木さんの遺言ですが、美しいハーモニーを通して、日本人が元気になって欲しいものです。

今、シベリウス国際ヴァイオリンコンクールがフィンランドで開催されています。4歳の頃から教えている高校3年生の生徒さんが出ていて、予選の演奏をアーカイブで視聴しました。ここでも日本人の才能が爆発!!2時予選に18人残りましたが1/3、6人が日本人なんです。とにかく難しい曲をとても簡単に弾きこなし、聴かせてくれています。

エリザベート国際コンクールのピアノ部門でも本選に12人残りましたが、日本人が4人、チェロもプラハの春で優勝されたり、他のコンクールでも優勝している人が多い。とにかく今、頑張ってくれています。

大ヴァイオリニストのピンカス・ズッカーマン曰く「練習に近道はない！とにかく時間をかけて練習するのみ」とのことです。日本人の奥底に眠っている、感性、才能を生かして世界に羽ばたく若者にエールを ❤

ムッシュ黒木の純正律講座 第82回限目

平均律普及の思想的背景について(71)

純正律音楽研究会理事 黒木朋興

ハイカルチャー＝芸術とサブカルチャー＝大衆文化の関係について考えてみたい。音楽で言うなら、クラシックがハイカルチャーなのに対し、ロックなどのポピュラーミュージックがサブカルチャーになる。しかし、その区分は一般に思われているほど自明ではない。例えば、グラウト、パリスカとバークホルダーによる『西洋音楽史 A History of Western Music』という著作を取り上げてみよう。この本は古代から現代までの歴史を詳述しているが、この中ではポピュラーミュージックに「ヴァナキュラー音楽」という表現を当てている。ヴァナキュラー音楽の章は最後に置かれページ数もそれほど多くはないのだが、この本の目的はヴァナキュラー音楽の成立過程を説明するために古代にまで遡って音楽の歴史を叙述したものなのだ。ヴァナキュラーの意味をAIに聞いてみると「その土地や時代、共同体に特有の、土着の、日常的な話し言葉の」という回答が得られるが、中世に詳しい音楽学者の上尾信也氏によれば、元来、非宗教音楽のことを意味していたとのことである。

西洋のクラシック音楽が教会での聖歌を基にしていることは広く知られている通りである。対して、宮廷での音楽や民衆が祭りの時などに演奏する音楽がヴァナキュラー音楽であったわけだ。プロテスタントの讃美歌と違って、カトリックや正教の聖歌のメロディは既にあるものであり、作曲家が新たに創作することは基本的にあり得ず、出来ることと言えば編曲くらいなものであった。文字通り、メロディは神によって与えられたものとみなされていたと考えられる。その中で、民衆が歌っている俗謡を讃美歌に取り入れたり、新たに宗教音楽を作曲することを肯定したのが、改革派のマルティン・ルターであった。この流れの中で重要な仕事をしたのがバッハである。彼は数々の宗教音楽を創作し、それらの曲は西洋クラシック音楽の重要なレパートリーになるばかりか、その発展の基礎を築いたのである。バッハが西洋音楽の父と呼ばれる所以である。もちろんバッハ以前にも宗教音楽を作曲した音楽家はいたが、その流れにおいて決定的な仕事をしたのがルター派の大芸術家であるバッハだったのである。

つまり、当初の時代においては宗教音楽がハイカルチャーであり、世俗音楽がサブカルチャーだったのに対し、それがやがて王侯貴族や富裕層のための音楽がハイカルチャー、民衆のための娯楽音楽がサブカルチャーという区分に移り変わっていたのだ。西洋キリスト教世界において、ハイカルチャーであるクラシック音楽の権威は宗教由来であり、芸術に通じた玄人は音楽を楽しむというよりは、教会で神に祈るような心構えで交響曲の響きに耳を傾けたのである。もちろん、優れた芸術家の才能は神から来たものであり、神が世界を創造したように芸術家は作品を創造するのだという考えが背後にあったことは指摘しておきたい。

バッハの贋作、実はバッハの盗作

純正律音楽研究会 初代代表
玉木宏樹遺作

1. 贋作、偽作、盗作の違いについて。

民放テレビの長寿番組「お宝鑑定団」で一番の目玉は真作か贋作かの鑑定で、1000万円以上と期待し、自信を持った出品者の「贋作」と断じられたときのリアクションが面白く、おおげさにガッカリすればするほど面白がる人は多い。贋作でいちばん多く、手が込んでいるのは、贋金造りであり、その次は美術品である。もちろん、うまい贋作を造って人をだませば、莫大な金になるのだから、犯罪はあとをたたない。その点、音楽(特にクラシック関係)はどうだろうか。ワーグナーの贋作を作っても、ビートルズを真似ても一銭の得にはならない。だから贋作なんてありようもないと思われるのだけど、過去、バッハ時代からベートーヴェンの頃までは実に贋作だらけなのだ。昔、楽譜の出版社の守備範囲は一都市に限られており、田舎の出版社はその恩恵には預かれなかった。だから、当時超有名だった作曲家には信じられないほどの贋作が多い。といつても有名で売れている作曲家のものでないと何の効果もない。そういう意味では贋作の多い作曲者ほど当時の売れっ子だったことが分かる。本物の作品の権利許諾の面倒さを避けるため、地方の出版社は、卖れていない作曲家や、学生たちにせっせと贋作を造らせた。特に被害の多いのは超売れっ子だったペルゴレージ(1710～1736、伊)ハイドン(1732～1809、オーストリア)で、ペルゴレージは20代で天逝したのに、恐らく60まで生きても書けないほどの贋作だらけ。またハイドンも超売れっ子で今でもハイドンの「セレナード」として有名なメロディは全くハイドンの作ではないことが判明している。ではバッハやモーツアルトはどうだったのか？バッハの場合、生存中は厳格な教師、オルガニストとしては有名だったけど、作曲家としては有名ではなく、出版も殆どされていない。だから、生存中、死んですぐ後の時期にも、誰もどこの出版社も贋作は作っていない。金にならない贋物をつくるはずはないからだ。ではモーツアルトはどうだろうか？神童としてもてはやされていた時はとても有名だったが、作曲家としての評価はなく、人格面での問題も手伝ってどんどん評価が下がりドン底状態になって行く。こんなモーツアルトだから殆ど贋作はない。意識的にモーツアルトの名前を騙って贋作を作ったのは20世紀に入ってのフランス人(カザドシュ)の「アデライーデ」というヴァイオリン協奏曲だが、これについては、後ほど述べよう。また、20世紀に入ってからも、1934年にミラノで逮捕された天才詐偽師トビア・ニコトラはペルゴレージやモーツアルトの贋作を熱心に作った。

最近、バッハのメヌエット(ラバーズコンチェルトの原曲)がペツォルトという人による贋作だとも言われているが、バッハ本人の作でないことは事実としても決して贋作ではなく、その点については次項の「バッハ」で述べよう。このメヌエットの場合は「偽作」という分類に入るようだ。「偽作」とい

っても誰かが意識的に「偽物」を作ったわけではなく、長年バッハ作だと信じられていた作品が実はそうではなかったという誤りが判明した曲が殆どで、小林義武氏の力作「バッハ伝承の謎を追う」(春秋社)には、殆ど小品とはいえ、約700曲の偽物と疑わしい曲のリストが書かれている。真偽不明の曲の多くの責任はバッハ本人にあることが多い。バッハは当時有名な音楽家族であり、息子の曲とか親類の作品に手を入れたとき、署名として「BACH」としか書かなかつたことが多々あり、後の人の判断を混乱させる一因となっている。またバッハは終生、自分の作品以外の他人の作品を何の為か(善意に解釈して勉強のためという人が多い)とても多く筆写しているが、その筆写譜に、元の作曲家の名を書いていないことが多く、結果的に盗作に近いと言われても仕方のない状況を作り出している。その原因のひとつとして、バッハ時代、もしくはバッハ本人の傾向として、音楽著作権の意識が希薄だったことにも原因はありそうだ。当時の作曲の勉強法の多くは、先生の提出したテーマを基に全員が対位法的な処理で曲を構成するという方法だった。これは全員がひとつのテーマを共有することであり、日本の昔の連歌に似ているともいえる。こういう習慣があると、誰かの曲を筆写したとしても作曲者の名前を書き忘れたり、書かなかつたりするのは罪の意識なんかなかつたろうと思われる。しかし、これはある意味では盗作のようなものだと言われても仕方のことだ。

次に「盗作」。贋作は他人がやり「偽作」は本人の不注意、しかし「盗作」は明らかに他人の曲を盗んで流用することである。バッハが悪意ある盗作はしていないようだけど、盗作の常習者はあの「音楽の母」ヘンデルだ。そのことは後に詳述するとして、現代の我々の時代、この「盗作」問題はかなりシビアな事態を招いてしまう。数年前に起こった小林亜星氏と服部克久氏の裁判は深刻な内容をはらんでいる。後ほど章立てで詳述したい。

2. バッハの贋作、実はバッハ自身の盗作？

「ラバーズ・コンチェルト」の原曲として有名だったバッハの「メヌエット、ト長調 BWV Anh.114」は実はバッハの作ではなくペツォルトという人の贋作だと最近言われている。

この話は後ほどにして、まずバッハから始めることについて。

日本の音楽教育ではバッハは「音楽の父」ということになっているが、そんなことを授業で吹きこむのは日本だけだと聞いたことがある。もちろん言いだしっぺはドイツ人。ドイツ絶対音楽の優越性を誇示するためのオーバーなキャッチフレーズで、ドイツ人だって本気で「音楽の父」と信じている人はいないだろう。もしそんなことを信じたらバッハ以前の作曲家は音楽をやっていなかつたことになる。だから「ドイツ音楽の父」というなら音楽後進国だったドイツにはふさわしいかも知れない。それでもなお「父」にふさわしくない決定的なことがある。それはバッハは生存中、有名人ではなく古臭い変人扱いされ、彼の作品は殆ど出版されていない。代表作といわれている「マタイ受難曲」も、すぐに忘れ去られ、死後80年目にメンデルスゾーンによって復活上演されるまで、そんな曲の存在は誰一人知らなかつたのだ。厳格な教育者としては多少知られていたから、教育的作品は多少使われていたかも知れないが、その他の曲

は全く忘れられており、そんなバッハが、ハイドン、モーツアルト、ベートーヴェンに影響を与えてはいない。モーツアルトとベートーヴェンは多少知っていたようだが、ハイドンは全く知らなかつたようだ。では当時有名だった作曲家は誰だったのか？日本人だけが言う恥ずかしい「音楽の母」ヘンデルだった。特にモーツアルトはヘンデルがとても好きで、モーツアルト風の編曲もいくつかやっている。

と、ここまで書いては見たものの、日本の常識にならってバッハから始めよう。というのもこの時代、楽譜の出版が盛んになり、有名な作曲家の作品にはその権利をめぐり音楽出版社がシノギを削った結果、売れている作曲家の贋作が横行したのだ。特に地方都市の出版社は、若手の作曲家たちを総動員して、贋作作りに没頭する。贋作の多さが、その時代の売れっ子振りのバロメーターにもなつておる、バッハより時代は下がるが物凄い人気作家だったけど26才で夭逝した天才、ペルゴレージ(1710～1736)は、60才まで生きたとしても絶対的に書き切れないほどの贋作だらけである。それも第二次大戦前のファシスト、ムッソリーニが国策で刊行したペルゴレージ全集が贋作だらけというのだから、罪作りなものである。

さて、「メヌエット、ト長調」の話に戻す。この曲はバッハの作ではなくペツオルト(Christian Petzold、1677～1733)の贋作だなどと言われているが、贋作などでは決してない。ペツオルトはバッハより年上で生存中は有名なオルガニストだった。多分バッハより有名だったペツオルトがバッハの名前を騙って贋作するはずもないし、そんなことをしても何の得にもならない。事実は全く逆で、バッハがペツオルトに無断で拝借してしまった結果なのだ。

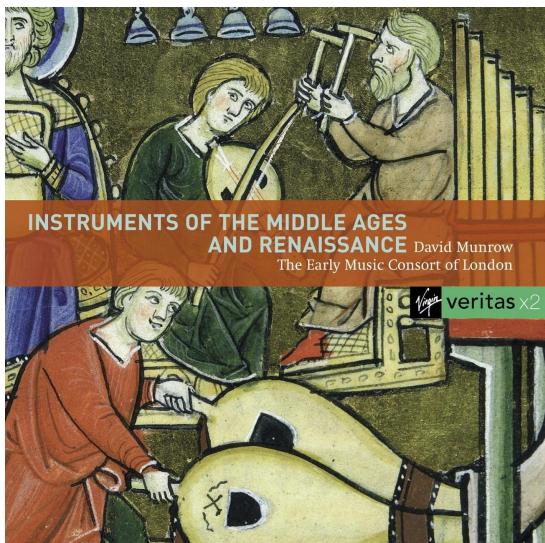
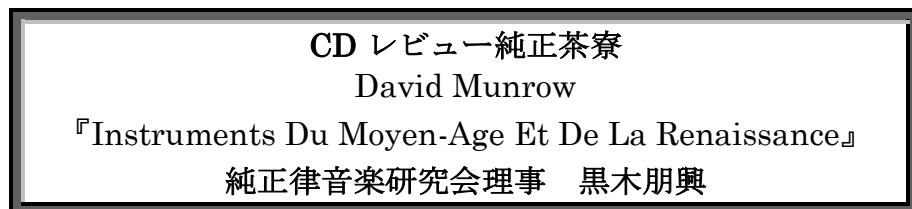
妻を亡くしたバッハはアンナ・マグダレーナと再婚した。ところが、アンナ・マグダレーナは音楽に強くない。音楽家一族のバッハとしては大変困るので、アンナ・マグダレーナにチェンバロを特訓するために練習用の小曲を書き貯めたのが「アンナ・マグダレーナの音楽帳」という練習用小品集。もちろん家庭内だけの音楽帳で、一般向けではないので、盗むという悪気はなかったのだろうけど、この音楽帳の中のメヌエット2曲を誰それの作曲(実はペツオルトの作)とは書かずに引用したため、後にこの音楽帳が発見された時はてっきりバッハの作品だろうと思われたのである。悪気はないとしても、いい曲だと思って引用したのなら作曲者の名前くらい書いてやってもよかつたものを。

実は私はこのト長調のメヌエットはヴァイオリンを習い始めてすぐ練習している。有名な鈴木メソッドに載っているからだ。後になって、どうもこの曲はバッハにしては単純すぎるなあと思ってはいたが、まさか別人の曲とは知らなかつた。もう一曲、バッハらしくない違和感を感じるのが有名なオルガン曲「ドカータとフーガ、ニ短調」だ。嘉門達夫のパロディでますます有名になった超個性的な出だし。バッハにしては最もメッセージ性の強い出だしで、他にはこんなエグイ曲は思いつかない。ところが最近、この曲もバッハの作ではないんじゃないいかという疑いが出てきたそうだ。何でもヴァイオリンの無伴奏用に作ったという説もあるが、はつきりとしたことは分かっていない。

家庭内の備忘録みたいなアンナ・マグダレーナの小曲集の他にも問題作はある。それはバッハが30歳の少し手前に書いた6曲のオルガン協奏曲で、この中の3曲はヴィヴァルディ原曲の編曲である(BWV593、594、596)。しかし公表時にバッハは出典を明らかにしていなかつたから、作為的であることは事実だ。

実はバッハがヴィヴァルディ(1678~1741、伊)を下敷にしたことはなぜか表立って知られてはいなかった。バッハ以前の音楽はすべてイタリアが主流で、ドイツは田舎臭い音楽後進国だった。19世紀に入ってのバッハ復活以後ドイツこそ絶対音楽の一流国であることを声高に主張しようとして「音楽の父バッハ」などと言いだしたのに、そんなバッハがヴィヴァルディの影響を受けていたなんてことは隠さなくてはならなかつたのだろう。

ヴィヴァルディからの編曲の場合、現在は勉強のための作業だということになっているが、最も露骨なのは、バッハの代名詞ともなっている「マタイ受難曲」だ。全部で68曲もある長大な中で最もクライマックスのキリストの処刑場面の有名なコラール「血潮したたる主のみかしら」が実はバッハの曲ではないのだ。バッハが生まれる70年くらい前に死んだ結構有名な作曲家だった、ハンス・レオ・ハスラーの世俗恋唄「わが心は千々に乱れ」なのだ。当時の流行歌だったらしいから、効果はあったのかも知れないが、血潮に染まったキリストの頭の場面で恋唄、それも失恋ソングとは・・・。現在の日本では死後50年たつと著作権は消滅するが、だからといって私が真面目な曲のクライマックスに中山晋平のメロディを持ってきたようなものだろう。きっと非難ごうごうになり、二度と仕事は来なくなるはずだ。これから見ても明らかにバッハは著作権の観念が欠如している。時代の風潮がそうだとしてもバッハには自分の音楽性への矜持が見られないと言えないだろうか。



David Munrow
『Instruments Du Moyen-Age Et De La Renaissance』
レベル : WARNER CLASSICS
ASIN : B000NQDC1A

ここ 20 年くらいで古楽は本当に発展したと思う。民謡 (chants populaires) について興味を持っていると言ったら、古楽のプロデューサーで研究仲間の齊藤基史氏がこのアーティスト David Munrow を教えてくれた。このアルバムの音を聞いて、前回紹介したフランスの Malicorne を思い起こした。

現在、古楽はクラシックのージャンルとして理解されていると言って良いだろう。売り場も当然のクラシックの売り場の一角だ。しかし、このアルバムに収録されている曲は、決して教会で歌われる聖歌つまり宗教音楽ではなく、民衆に歌われていた俗謡なのでヴァナキュラー音楽ということになる。今号の別欄で述べているように、ヴァナキュラー音楽とは現在のポピュラー音楽だ。

民謡 (chants populaires) に興味を持ったのは、19 世紀末欧洲におけるナショナリズムとか文学における自由詩運動との関連に気が付いたからなのだ。実際、19 世紀末、ラベルやダンディなどの作曲家も *chants populaires* と銘打った作品を発表している。ところが現代人の耳にそれらは当時のパリの場末で演奏されていたと思われるシャンソンに聞こえる。対して、ダンディの盟友であったボルドーはバスクの民謡の採取をしている。

20 世紀後半のフランスにおける民謡の復活運動は、まずアラン・スティヴェルなどによってブルターニュ音楽から始まった。その後、フランスの他の地域の民謡にも焦点を当てていったのが *Malicorne* になる。これらの音楽は基本的にポピュラー音楽の売り場に置かれている。

しかし、元を辿れば今回紹介する David Munrow と同種類の音楽ということになる。自然にハモる音楽が世の中に浸透してきたとも言え、嬉しい限りである。

北アメリカ、中央アメリカ及び南アメリカの国々とその地域(その 2)

NPO 法人 純正律音楽研究会
正会員 弁護士 齋藤昌男

目次

- 第 1 款 緒論
- 第 2 款 北アメリカ
- 第 3 款 中央アメリカ
- 第 4 款 南アメリカ
 - 第 1、コロンビア共和国
 - 第 2、エクアドル共和国
 - 第 3、ベネズエラ・ボリバル共和国(ここまで前回)
- 第 5 款 コメント

記

第 4 款 南アメリカ

- 第 4、ガイアナ共和国(Guyana)
 - 1、面積 21.5 万平方キロメートル(本州よりも少し小さい)
 - 2、首都 ジョージタウン
 - 3、人口 78.8 万人(山梨県くらい)

- 4、通貨、ガイアナ・ドル
- 5、言語 英語(公用語)、ガイアナ・クレオール語(英語系)
- 6、宗教 プロテスタンント 34.8 パーセント、ヒンズー教 24.8 パーセント、カトリック 7.7 パーセント
- 7、政体 単一複数政党共和制(1院政)
- 8、ガイアナは、長らくイギリスの植民地だった歴史を持ち、南米で唯一英語を公用語としている国です。1966年にイギリス連邦加盟の独立国となりました。国民の4割をインド系が占め、アフリカ系が3割、混血が2割、先住民が1割を占めます。
- 9、2015年、ガイアナ沖合 200 キロメートルの地点で、世界有数の巨大油田が発見されました。2019年に生産を開始し、2年間で 72 パーセントの経済成長を達成しました。
- 10、1987年、アメリカのカルト教団「人民寺院」がガイアナに入植し、ジョーンズタウンという街を北部に拓きました。まもなく集団自殺・殺戮が発生し、900人以上が死亡し、現在は街も消滅しています。
- 11、首都ジョージタウンのシンボルは、1892年に完成したゴシック様式の聖ペトロパウロ大聖堂と並ぶ、西半球最大規模木造建築です。
- 12、インド系住民が多いため、信者数が多いのがヒンズー教。この為、町のあちこちにヒンズー教の寺院が立ち並んでいます。
- 13、一段の滝としては世界最大級の高さを誇る滝があります。中部のジャングルにあるカイエドゥール滝で、落差は 226 メートルあります。
- 14、ラム酒と言えば、キューバやジャマイカ産が有名ですが、ガイアナのデメララ川沿いも名産地の一つです。
- 15、グアヤナエセキバとは、ガイアナの西部一帯のエリアのことです。実行支配しているのはガイアナですが、ベネズエラは自国の領土だと主張しています。

第5、スリナム共和国(Suriname)

- 1、面積 16.4 万平方キロメートル(日本の約半分)
- 2、首都 パラマリボ
- 3、人口 61.5 万人(兵庫県より少し多い)
- 4、通貨 スリナム・ドル
- 5、言語 オランダ語(公用語)、英語、スリナム語
- 6、宗教 プロテスタンント 23.6 パーセント、ヒンドゥー教 22.3 パーセント、カトリック 21.3 パーセント、イスラーム 13.8 パーセント
- 7、16世紀から17世紀にイギリスとオランダがこの地で領有権を争い、1667年にニューアムステルダム(現ニューヨーク)と交換でオランダの植民地となりました。1975年に独立を果たしました。
- 8、世界遺産 [1]パラマリボ歴史地区 中南米では珍しくオランダの影響が強い都市景観です。[2]中央スリナム自然保護区 国土の1割を占める広さで、鮮やかなオレンジ色のギアナワドリなど 680 種の鳥類、6000 種の植物など、動植物の宝庫です。
- 9、オランダ語が公用語ですが、多くの人がスラナン語を話します。これはオランダ語を母体に、ジャワ語、ヒンドゥー語などが混合した言語で「タキ

タキ」と呼ばれます。

10、ガイアナ、スリナム、仏領ギアナは、「ギアナ3国」と呼ばれます。

第6、仏領ギアナ(French Guyana)

- 1、面積 13万平方キロメートル(北海道とほぼ同じ)
- 2、首都 カイエンヌ
- 3、人口 29万7000人(府中よりも少し多い)
- 4、通貨 ユーロ
- 5、言語 フランス語(公用語)、クレオール語ほか
- 6、宗教 カトリックほか
- 7、仏領ギアナは、南米大陸唯一の非独立地域です。
- 8、1794年フランスからの流刑地として囚人が送られ、1854年に囚人による植民も開始されました。1938年には流刑地としての役割は終わり、1946年にフランスの植民地からフランス本土の県と同等の地位を持つ海外県に変更されました
- 9、1960年代の後半に建設されたフランス国立宇宙研究センターの宇宙ロケット発射基地があります。
- 10、スリナム及びブラジルとは国境問題があります。

第7、ブラジル連邦共和国(Brazil)

- 1、面積 851.6万平方キロメートル(日本の約22倍)
- 2、首都 ブラジリア
- 3、人口 2億1345万人(日本の1.74倍)
- 4、通過 レアル
- 5、言語 ポルトガル語(公用語)、先住民の言語
- 6、宗教 カトリック 65パーセント、プロテstant 22.2パーセント
- 7、政体 複数政党連邦共和制(2院制)
- 8、16世紀以降、植民地支配を受けていた他のラテンアメリカと同様です。しかし、独立前には「ブラジル帝国」という立憲君主制国家でした。きっかけは、ナポレオンです。1807年、フランス軍のポルトガル侵攻により、ポルトガル王室は植民地ブラジルに逃れ、リオ・デ・ジャネイロに遷都しました。ナポレオンの失脚後、ポルトガル王は本国に戻りましたが、ブラジル在住の支配層は、摂政として残った王太子ドン・ペドロを擁立、1822年ブラジル政府の独立を宣言しました。無血で独立を達成しました。
- 9、世界遺産 [1]イグアスの滝 世界3大瀑布の一つで、ブラジルとアルゼンチンにまたがる滝幅約4キロメートル、最大落差80メートルの世界最大級の滝 [2]パンタナル ブラジル、ボリビア、パラグアイにまたがり、日本の本州と同等の面積を持つ世界最大級の淡水湿地帯で、雨期には80%以上が水没し、特異な生態系を持っています。[3]大河アマゾン川 ブラジルを中心に南米5か国を流れる全長約6500キロメートルで、流域面と水量は世界一の大河。
- 10、19世紀中頃行こう世界最大のコーヒー生産国で、1960年には輸出量約6割を占める主要輸出品となりました。
- 11、リオ・デ・ジャネイロ生まれのポップス・ボサノヴァは、1960年の後半に海岸地帯で生まれ、60年大には世界的に流行しました。

- 12、国技は、サッカーではなく、カポエイラで、カポエイラは、蹴り技らが生み出したとされています。
- 13、ブラジル人は、カーニバルが大好きです。ブラジル3大カーニバルは、リオ・デ・ジャネイロ、サンパウロ、リオデジャネイロです。
- 14、鉄串に刺した牛肉等の焼き肉を食べる習慣があるが、シチューと言え、この為ブラジルは、アメリカ、オーストラリアに次いで肉類の消費の国とされています。
- 15、ブラジルでは、国内のほとんどの大都会に存在すると言うファベーラです
不法建築だから住所がない。電気は盗電によるもので、上下水道は完備されておらず、ゴミも収集されておらず、ギャングが統治しています。なかでもリオ・デ・ジャネイロには、ファベーラが多い。リオ市民の4分の1ファベーラの住民とされています。
- 16、世界最大規模の日系コミュニティー、1904年の第一回移民船・笹戸丸による日本人集団を皮切りに、100年以上に渡って約26万人の日本人がブラジルに移住しました。現在では2世、3世を含めると、約200万の日系人社会が存在します。
- 17、ブラジリア ブラジルの首都はブラジリアです。1956年、大統領に当選したジュゼッペ・クビチェックが、新都市建設と遷都を発表しました。

第8、ペルー共和国(Peru)

- 1、面積 128.5万平方キロメートル(日本の約3.4倍)
- 2、首都 リマ
- 3、人口 3220.1万人(東京都の約1.5倍)
- 4、通貨 ソル
- 5、言語 スペイン語(公用語) ケチュア語(公用語) アイマラ語(公用語)
- 6、宗教 カトリック 60パーセント、福音派 11.1パーセント
- 7、政体 単一複数政党共和制(1院制)
- 8、1990年の大統領選挙で日系人のフジモリ氏が大統領となり、2000年まで政権を担いました。
- 9、世界遺産 [1]インカの天空都市マチュピチュ、標高2400メートルの断崖に建築された遺跡で、太陽の神殿などの多くの石造建築が残っています。[2]大地のアート、ナスカの地上絵、バラカス及びナスカ文化時代に描かれた動植物や幾何学図形、人形地上絵で、最近のコンピューターの分析によりその数が増えました。
- 10、古代アンデス文明発祥の地、文字を持たず、車輪の原理も知らなかったが、優れた統治能力と高度な金銀鋳造技術を持っていました。15世紀に栄えたインカ帝国は南北4000キロメートルにも及ぶ大帝国を築き上げ、マチュピチュ遺跡をはじめ多くの巨石建造物を残しました。しかし1533年にインカ13代皇帝アタワルパは、スペインの侵略者ピサロに処刑されました。インカ帝国は、滅亡し、ペルー副王領の首都に定められたリマは、以降300年に及ぶスペイン植民地政策の拠点となりました。
- 11、インカの太陽の祭りインティライミ、毎年6月24日クスコで開催される南米3大祭りの一つです。
- 12、インカ創世神話の地、ティティカカ湖、標高3812メートル、ボリビアの

国境に位置しており、汽船が航行可能な世界一標高の高い湖です。

- 13、星と雪の巡礼祭、コイヨリティ、南部にある霊峰アウサンガテで行われるインカの祖先崇拜とカトリック信仰の融合した祭りで、民族舞踊と衣装も見事であり、無形文化財となっております。
- 14、アフリカからの奴隸が産んだ打楽器達、木箱にまたがって奏するガボン、小箱の蓋を開閉させながら引くカヒータ、ロバの骨でできたキハーダ、アフリカ系は身近なものを楽器にします。
- 15、ジャガイモの原産地でその種類は、4000以上あります。
- 16、1821年アルゼンチンから遠征したサン・マルティンがリマを解放し独立を宣言しました。1879年乃至1884年の太平洋戦争(硝石戦争)でチリに敗北し、南部のアリカ、タラバカを割譲しました。1986年クーデターで軍部が政権を握りました。1980年の総選挙で12年ぶりに民政移管となりました。

第9、ボリビア(ボリビア多民族国家) (Bolivia)

- 1、面積 109.923万平方キロメートル(日本の3倍)
- 2、首都 リマ
- 3、人口 3220.1万人(首都圏の人口位)
- 4、通貨 ボリビアーノス
- 5、言語 スペイン語(公用語)、36の先住民言語(公用語)
- 6、宗教 カトリック 70%、福音派 14.5パーセント
- 7、単一複数政党共和制(2院制)
- 8、1533年この地域はスペインに征服され、1542年ペルー副王領に編入されました。1821年ペルーが独立を宣言されました。1825年この地域は分離独立をしました。[1]その後、チリとの太平洋戦争(硝石戦争、1879年乃至1884年)太平洋岸を奪われ内陸国となりました。この為、3月23日を海の日と定め「チリへの恨み忘れまい。」とやっています。[2]1903年アクレ紛争ではブラジルに敗れ、19万平方キロメートルにも及ぶアマゾンエリアを奪われました。[3]パラグアイと戦ったチャコ戦争では、24万平方キロメートルという広大な領土を失うことになりました。負け戦が続いたため、国土は往時約半分に減りました。
- 9、1952年民族革命運動のエステンソロが大統領に就任し、1964年にクーデターが起り、反共の軍事政権が續きました。1982年、十八年ぶりに民生に復帰しました。
- 10、ボリビアは、マクドナルドが早期に撤退した国として有名です。1997年に進出し、2002年に撤退しました。国内物価に対し価格が高すぎたこと、ファストフードがボリビア人の口に合わなかつたことが竜とされています。
- 11、南米3大祭の一つオルロのカーニバル、無形文化遺産となっています。先住民の地母神崇拜とカトリック信仰が融合したもので、2万人以上のダンサーが4キロメートルにわたって踊り歩くそうです。
- 12、世界最大の塩の湖、ウユニ塩湖、標高3700メートル、高低差がほとんどない世界一平と言われる場所にあり、雨季は天地を映す水鏡、乾季は遠近感を狂わす純白の塩原でのトリック写真撮影が人気です。

13、長いお下げが自慢のチョリータさん、先住民女性を指す言葉で、侮辱の意味もありますが、お下げ髪に山高帽、ポジェラというスカートを重ね着したチョリータルックに誇りを抱く女性も少なくありません。

第 10、パラグアイ共和国(Paraguay)

- 1、面積 40.7 平方キロメートル(日本の約 1.1 倍)
- 2、首都 アスンシオン
- 3、人口 727.3 万人(愛知県より少し多い)
- 4、通貨 グアラニー
- 5、言語 スペイン語(公用語) グアラニー語
- 6、宗教 カトリック 89.6%、プロテstant 6.2%
- 7、政体 複数政党共和制(2院制)
- 8、唯一の世界遺産としてイエズス会伝道所跡があります。
- 9、イタイフダム、千九百九十一竣工で世界最大級ダムです。共同管理国の
ブラジルに余剰電力を供給しています。アルゼンチンと共有のジャスレタ
ダムと併せ、自国と隣国の発電機能を担っております。
- 10、牛の頭数は人口の約 2 倍、日本の約 1.1 倍の国土におおよそ 1400 万頭の
牛がいます。一人当たりの年間消費量は南米 3 位の約 25 キログラム。
- 11、大豆輸出量世界第 3 位、日本人移民が原生林を開墾して、大豆を栽培し、
その他、小麦、トマト、トウモロコシも日本人が広めたものです。
- 12、アルバの独奏としての地位させたパラグアイからは「アルバの父」と呼ば
れるカルドーソをはじめ、卓越した演奏者や作曲家を多く輩出しています。
- 13、国内最大のカーニバルであるジャマーだす、アフリカ系文化を色濃く反映
したカーニバルで、毎年 2 月にエルカンナシオンで開催され、コンバルサ
と呼ばれるダンスグループがカンドンベのリズムに合わせて踊ります。
- 14、1957 年に台湾と国交しました。周辺諸国が次々と中国との国交を結ぶな
か、唯一台湾との関係を維持しています。
- 15、地勢、北から南区にはパラグアイ川(ラプラタ川の支流)がブラジル国境に
沿って南下し、国土の中央を貫流しています。西部にはグランチャコ(定湿
地帯)、東部には湿地帯が広がります。
- 16、略史、先住民はグアラニ一人など。1537 年探検隊によりアスンシオンが
建設されスペイン領となりました。1811 年パラグアイ州共和国として南
米初の独立を宣言しました。1864 年から 1870 年までアルゼンチン・ブラ
ジル・ウルグアイ 3 国との戦争で敗北し、領土の 4 分の 1 を失って人口が
激減しました。1932 年乃至 1938 年のチャコ戦争では勝利したものの経済
的な打撃を被りました。1954 年のクーデターで誕生したストノエスネル
政権は、反体制派指導者を国外追放するなど独裁支配体制をしていました
が、1989 年クーデターで崩壊し、1993 年の大統領選挙で民間人が当選し、
39 年ぶりに文民大統領となりました。

第 11、ウルグアイ東方共和国共和国

- 1、面積 17.6 万平方キロメートル(日本の約半分)
- 2、首都 モンテビデオ
- 3、人口 339.8 万人(熊本県の約 2 倍)

- 4、通貨 ペソ
- 5、言語 スペイン語(公用語)
- 6、宗教 カトリック 47.1 パーセント
- 7、政体 共和制(2院制)
- 8、緩衝国という苦難の歴史を背負っています。植民地時代にバンダ・オリエンタルと呼ばれたウルグアイは、スペイン、ポルトガルの係争地としてたびたび帰属先が代わり、アルゼンチンとブラジル両国の霸権争いに翻弄されてきました。1828年「ウルグアイ東方共和国」として独立するものの、長年の戦いで国土は疲弊、人口は7万4000人まで激減しました。緩衝国と言う立場が大国の干渉を招き、親アルゼンチンと親ブラジルの抗争から内戦が勃発しました。
- 9、1903年就任のバジエ大統領は、スイスを手本とした社会保障制度改革を断行しました。年金法制定をはじめ、失業補償、8時間労働制、教育無償化などを推し進め「南米スイス」とも呼ばれました。
- 10、1973年左派の伸長に危機感を抱いた軍部はクーデターで議会を解散し、事実上軍政になりました。1985年民生に移管しました。
- 11、人口の9割がスペイン系、イタリア系、先住民との混血率が低い国で、教育水準は高く、文化的・社会習慣的にヨーロッパとはほぼ変わりません。
- 12、国内総電力の約95パーセントを風力と水力、太陽光、バイオマスなどで補っています。南米の再生可能エネルギー大国。余剰電力を隣国に供給する余裕まであります。
- 13、国土は日本の半分以下ですが、そのほとんどがパンパ(草原地帯)で農地として利用されており、放牧されている牛の数は約1200万頭で、人口の3.5倍にもなります。
- 14、開催期間は40日、ラス・ジャマーダスのカーニバルがあります。
- 15、ミロンガとカンドンベ、タンゴの一種のミロンガは軽快で素早いリズムが特徴であり、カンドンベはアフリカの音楽です。

第12、アルゼンチン共和国(Argentine)

- 1、面積 278.0万平方キロメートル(日本の約7.4倍)
- 2、首都 ブエノスアイレス
- 3、人口 4586.5万人(東京都の約3倍)
- 4、通貨 ペソ
- 5、言語 スペイン語(公用語) イタリア語 英語など
- 6、宗教 カトリック 62.9パーセント 複音派 15.3パーセント
- 7、政体 連邦共和制(2院制)
- 8、略史 北西部がインカ文明の一部であった以外は、狩猟民がわずかにクラス土地がありました。1516年にスペインの探検家ファン・ディアス・デ・ソリスがラプラタ河口に到着しました。1776年スペインのラ・プラタ副王領になりました。1810年革命軍が副王廃止し、1816年「ラ・プラタ連合」独立宣言をしました。1853年連邦制の憲法を制定しました。1862年アルゼンチン共和国となりました。1943年ファン・ペロンらの統一将校団が軍事政権を樹立。1946年ペロンが大統領に就任しますが、1955年クーデターで追放されます。以後、一時期をの

ぞき群生が續きました。1973年民生移管後、ペロンが再び大統領となりました。1974年ペロン死去後、妻のイザベル副大統領が世界初の女性大統領に就任しました。1976年軍部がクーデターで政権奪取しました。

- 9、エバ・ペロンの生涯、婚外子として生まれ、女優からファーストレディにまで上り詰めたマリア・エバ・ドゥアルテ・デ・ペロン(愛称エビータ)。女性参政権の獲得から富の再配分を目指したことから、聖女として労働者層から絶大な支持を得る一方で、富裕層や軍上層からは敵視されました。子宮がんにより33歳と言う若さで夭逝しました。
- 10、ブエノスアイレスのポカ地区は、アルゼンチン・タンゴの発祥地です。
- 11、45もの劇場を持つ、文化と劇場を持つ文化と芸術の国です。
- 12、国技はサッカーではなく「パト」、死んだアヒルを革袋に入れ、馬を操りながら籠に投げ込むガウチョのスポーツで、アヒルは現在使用禁止で、1953年国技となりました。
- 13、パタゴニア、南米大陸南緯度40都市以南に広がる広陵とした乾燥地帯で、牧羊、観光が盛んです。
- 14、世界最南端の都市ウシュアイア、北マゼラン海、南をビーグル水道に挟まれたフェゴ島南部の都市で、凶悪犯用の元監獄や世界の果て博物館があり、南フェゴ南部の都市です。
- 15、南米にある第2のイタリア、先住民人口が少ない土地に欧洲からの移民が大量に入植したため、欧洲系比率は97パーセント。特にイタリア系が多く、自国文化形成に多大な影響を与えました。
- 16、中南米に関する領土問題と言えば、アルゼンチンとイギリスのフーケランド紛争が有名です。武力衝突にまで発展し、イギリスが勝利しましたが、いまだアルゼンチンは返還を求めています。

第13、チリ共和国(Chile)

- 1、面積 75.6万平方キロメートル(日本の約2倍)
- 2、首都 サンチアゴ
- 3、人口 1830.8万人(東京都プラス福岡県位)
- 4、通過 ペソ
- 5、言語 スペイン語(公用語)、先住民の言語(マップドウング語等)
- 6、宗教 カトリック 66.7パーセント、複音派とプロテスタント 16.4パーセント
- 7、政体 複数政党共和制(2院制)
- 8、略史 15世紀乃至16世紀、北中部はインカ帝国の一部でしたが、マウレ川以南はマップチェ人が支配を續けました。1532年フランシスコ・ピサロがインカ帝国を征服、ピサロの配下がペルーから侵入し、1541年サンチアゴ市を建設、スペインの植民地化を勧めました。1810年自治政府樹立し、1818年独立を宣言しました。南部パタゴニア地域ではマップチェ人の抵抗が續き、1860年には「アラウカニア・パタゴニア王国」が建国されましたが、1862年に鎮圧されました。1879年乃至1884年硝石の開発をめぐる太平洋戦争(硝石戦争)でボリビアからアントファガスタ、ペルーからタラカパなどを領土として獲得しました。

た。その後、内乱・クーデターで政情不安が續きましたが、1932年以降民主的な政権交代が續きました。1970年大統領選挙でアジェンデ社会主義政権が成立しました。南米で、最初に中国と外交を樹立しました。アメリカ系銅山の接收など社会主義化を進めましたが、ストライインフレなどの経済危機が表面化し、1973年クーデターでピノチエト反共軍事政権が発足しました。ピノチエト軍事政権は、独裁政治で反体制派を弾圧、死者・行方不明者は数千乃至数万人、亡命者は100万人に及びました。2006年1月の大統領決選投票で与党連合のバチエレ前国防相(社会党)が勝利し、チリ史初の女性大統領が誕生しました。

- 9、イースター島、本土の約3700キロメートル沖合に浮かぶ孤島。巨石像モアイ建造途中を含めて約900体残っています。
- 10、東京大学アタカマ天文台、地上から赤外線観測に最適な標高5640メートルのチャナントール山頂に鎮座。誕生直後の銀河発見など成果多数、世界最高地点の天文台です。
- 11、銅の埋蔵・生産量、世界第1位の鉱業大国
- 12、60センチメートルの南極カニ、セントージャ、南米大陸南端の海域にのみ生息しています。
- 13、南極ツアーのフライトが就航しており、約2時間で南極海のキング・ジョージ島へ行けます。

第14、中南米領土問題

- (1) アルゼンチンとイギリスのフォークランド紛争については、アルゼンチンのところで、すでに述べた通りであります。
- (2) ピーグル海峡の延長にある、3島の領有権をチリとアルゼンチンで争っています。
- (3) グアヤナエキバ問題 これも触れましたが、グアヤナエキバとは、ガイアナの西部一帯のエリアを指します。実行支配しているのはガイアナですが、ベネズエラは自国の領土だと主張しています。
- (4) ガアテマラ・ベリーズ問題 スペインの植民地としていたガアテマラ・ベリーズの領土。ただ、ベリーズは実質放置の状態で、そこにイギリスから入植者がやってくる。このことでスペインとイギリス対立。結局は、イギリスが支配する地域となりました。

第15、アンデス山脈

南アメリカ西部をなく僕に走る世界最長の山脈。環太平洋造山帶の一部で、カリブ海岸からベネズエラ・コロンビア・エクアドル・ペルー・ボリビア・チリ・アルゼンチンに至り、フェコ島に達する世界最長といわれる全長7500キロメートルの山脈です。アンデス山脈は、太平洋の下にあるナスカプレートが南アメリカプレートにぶつかり、その下に沈んだことで大陸が盛り上がり形成されました。白亜紀(約1億4500乃至6600万年前)に形成が始まったと言われています。また、コトパクシ山をはじめ50以上の火山があります。登山史は、1736年エクアドルのチンボラソ山を中心としたフランス調査隊が入ったのが始まりです。アンデスの語義は諸説があり、「階段畑」説が有力です。

第5款 コメント

地球の反対側にあるとはいえ、あまりにも中南米を知らなすぎる。

参考文献

- | | |
|-----------------------|-----------|
| 1、中南米及び北アメリカ 36 の国と地域 | 旺文社発行 |
| 2、読むだけで世界地図が頭に入る本 | ダイヤモンド社発行 |
| 3、データブック・オブ・ザ・ワールド | 二宮書店発行 |
| 4、コンサイス外国地名辞典 | |

以上

2025年4月21日脱稿

今後のスケジュール

【純正律音楽コンサート】

2025年7月5日(土曜日)

開演 14:00 開場 13:30

会場：飯島藤十郎社主記念「LLC ホール」



おたより募集！

会報のご感想、ご意見、純正律音楽にまつわること等々、なんでもお寄せ下さい。たくさんのお便りを、お待ちしております。

次号の【ひびきジャーナル】にてご紹介させて頂きたいと思っております。

〒168-0072

東京都新宿区百人町 4-4-16-1218 NPO 法人 純正律音楽研究会

お電話：03-5389-8449 FAX：03-5389-8449

e-mail : puremusic0804@yahoo.co.jp http://just-int.com/

2025年5月26日 発行責任者：NPO 法人 純正律音楽研究会

編集：相坂政夫

*純正律音楽研究会 YouTube チャンネルを開設しました。

コンサートや CD 紹介の映像が当会ホームページからご覧いただけます。

<http://just-int.com/>